

# トークDE青年会議SHOW!

## 帯広JC第六〇代理理事長 金澤 宗一郎君



## 北海道赤十字血液センター

### 帯広出張所

### 所長 桑原 昭様

**金澤理事長（以下金澤）** 本日はありがとうございます。初め、1965年に釧路の献血センターの出張所として帯広に開設されたのが始まりと聞いています。

**桑原所長（以下桑原）** まず、釧路に道内で4番目の血液センターが開設されました。その際に帯広市から帯広にも血液センターの出張所を開設したいということで立ち上がり、昭和40年に帯広出張所ができました。昭和39年の閣議で、売買で流通していた献血が、今後はボランティアで行うことが決定され、その年に話がでていて、その次の昭和40年にはできなかったということで献血に対する思いが非常に強い地域だと感じました。

**金澤** 1983年に血液センターができあがったのですよね。

**桑原** 1983年に血液センターの建物ができあがり、ここから医療機関へ血液を届けるということを開始させました。

**金澤** 閣議決定の資料の中でも帯広市の住民は、自分達で血を補えるようにしていきたいという強い思いがあり、帯広青年会議所もその一助になったかと思うのですが、出張所と献血センターの違いというのはあるのでしょうか。

**桑原** 出張所ときは、あくまでも市の職員が中心で献血のPRなどを行っていました。その間は釧路から移動採血車が1週間、血液センターに泊まり込みをして献血のお願いをして、帯広市が献血を行う先を決めていました。現状では職員が行っていますが、職員ではない方が協議会として行っているとい

う違いがありました。血液の医療機関への供給に關しても、今は我々赤十字の職員が行っておりますが、その当時はJRで釧路から帯広へ運び、地元薬局の方に取りに行っていたいき、そこから病院へ運んでいました。今とは状況が全く違います。それで何が問題になったかというところ、血小板製剤はいうものが現在4日間という期限ですが、当時は6時間以内で、帯広に採血所がなかったため釧路で採血し、すぐにJRで運び、帯広に着いたところで検査結果が出て、血液が使用可能かどうかを判断してました。非常に苦労もしたし、十勝の皆さんは輸血できなかったというジレンマがあり、これらの医療には血液というものが重要な部分を占めるので是非つくりたいということでした。その中で帯広青年会議所の皆さんが一番先に先頭に立っていただいて、署名活動などを行っていただいたということがスタートでした。

**金澤** 帯広青年会議所は署名活動や募金活動を中心にやらせていただいた中で、最終的には1993年に血液センターができ、2015年には献血運動に貢献したということで厚生労働大臣表彰もいただきました。

**桑原** 帯広青年会議所の功績は帯広の血液センターにとつては非常に大きく、表彰も私としては遅いくらいだと思っております。その前年にサマーフェスタということで若者中心に日本赤十字社がLive in Actionということを取り組んでいて、その十勝版ということをやっていたことが、国にもPRになり厚生労働大臣表彰へ結びつ

いたと思います。

**金澤** 帯広青年会議所としてもすぐく名譽なことです。でも、表彰を目指してやっているわけではない、啓蒙、啓発を兼ねて帯広青年会議所としてはその一助になっていきたいと考えております。ちなみに全国的には血液というのは足りない状況なのではないでしょうか。

**桑原** 医療が発達しておりますし、昔は血液が多く使用されていた状況や、無駄なく使用しようという厚生労働省からの適正使用の働きかけもあり、使用量は減ってきたという状況がありました。我々も徐々に減っていくだろうという予測はしておりました。しかし、一人ひとりに対する血液の使用量は減ってきましたが、高齢化社会で高齢者が増加することで使用する人が増えてきた現状があります。日本赤十字社でこの先の血液使用について全国で実際に血液を使用されている先生方を対象にアンケートをとりました。帯広でもいくつかの病院の先生にアンケートをとり、その結果と今後の人口などのデータを鑑みると、ここ5年ぐらいは微増でその後は微減という推測がされております。ということは、これからも変わらず血液は使用されていくのだろうと解釈しております。

**金澤** 献血の年齢制限は70歳の誕生日までですが、70歳前の方でも献血ができない方の割合は高かったりするのでしょうか。

**桑原** やはり年齢が高くなるとどうしてもいろいろな病気がでてきます。そこで色々な薬を飲むと、献血をしたくてもできない方がかなりいらっしゃるま

す。これは年齢が高齢とかは関係なくて、我々としても輸血をもらう方のことを一番に考えないといけないと思っただけなので、せっかく病気を治そうと思っただけ輸血をしたことで、それで何かのウイルスや病気にかかって命を落とすということがあつてはならないと思えますので、血液については世界一の検査を行っていると言っても過言ではありません。そのため血液の安全安心ということもありますし、献血していただく方の健康も考えていかないとけないと思います。献血したはいけいけど具合が悪くなったというのも困りますし、その中で献血できる方の範囲が狭まってきたのは仕方ないことかなと僕らは考えております。

**金澤** 今のお話の中であった献血していただく方の健康面も考えたいということがありました。献血の際に我々も啓蒙・啓蒙活動をしていく中で献血した後の体調や、時間も40分前後かかるということも含めて、献血してみたい、社会貢献もしてみたいけど不安や怖さもあるかと思うのですが、桑原所長としては何が一番献血に踏み込むポイントだと思いますか。

**桑原** 僕が思っているのは、献血という言葉知っているけども実際に献血してどうやってするのか、献血っていったいどういうものなのか、献血がどういう形で使われているのかを一般の方々はわかってないのかなと思っただけです。ですから献血って言ったから日常になかなかないものだから、そういったものをすることに怖さがあるから、当然なのかなと僕は思っています。そのためには献血はどういうものかと

知っていたことが一番重要だと思っております。やっぱり知っていると知らないのでは全く違いますよね。知っていてやるのと知らなくて何をされるのかでは全く違ってくるので献血の理解や教育について力を入れなければいけないと考えております。

**金澤** 今年も帯広青年会議所としては、啓蒙・啓蒙活動を行いながら、なおかつ献血に足を運んでいただく運動をしていく中で、帯広青年会議所自体が20才から40才で構成されている団体ですけども、その中で若い人たちに献血の重要性を訴えていき



いという想いがあるので、若者の献血に対する考え方について桑原所長の見解をお聞かせください。

**桑原** 帯広だけのことでなくて、全国的にも10代から30代の方は毎年減っていつていつているというところは数年前から言われております。今の状況をお話しますと10〜30代は減っていつて40〜50代は増加していて、それで血液を医療機関に提供できているのが実態です。それと若者がなぜ献血をしなくなったのかを私なりに考えているのですが、やはり40〜50代の方の時には実際に高校に移動採血車が直接行って、お願いしたとかそういった経験があります。若い時に1回でも献血経験があるとその後もブランクがあっても献血がしやすいというデータが出ていて、そういうことからいくと今後、高校での献血ということが結構重要だと思えます。ただ世の中も変わってきていて献血に親の承諾書が必要ですとか学校内でも何かあった場合に責任の問題などがあります。我々としても足が遠のくという部分が当然あります。学校側も他ではしなさいと言うのですが、学校まで移動採血車が来られるのは困るなというところがでてきたということが実際のところですね。それで若者が献血をするという環境がなくなってきたのかなということがあり、若者の方々に献血が波及しなかったと僕なりに考えております。逆に質問させていただきたいのですが、理事長の献血というのはどういうきっかけで知ったのですか。

**金澤** 私は献血をしようと思ってできなかったというのがあり、東京の大学に通っていた時に大学に移



動採血車が来て、献血しようと思って入ったときに高校でヨーロッパに3年間留学していて、献血ができないと言われてきました。その際に私は献血ができない体だと思いました。また、私にも小学校1年生の子供がおりますが、出産のときに妻が出血多量で血液が足りなくなってしまうと、輸血をしないと命にかかわるといふことがありまして、そのときに私も妻と寄り添っていたのですが、急に痙攣して顔が一気に白くになり、大丈夫かなと思う事態なり輸血しました。その際に献血の大切さを知ることができました。

た。私自身が献血できないということにもどかしさもあります。だからとこそ、帯広青年会議所で行う献血運動は推し進めていきたいなと考えております。**桑原** ありがたい言葉ですね。本当に10〜30代の方は、これからも全国的に減少してきています。今のところ10代については、帯広青年会議所と一緒にやった学校への献血セミナーを何校かやった中で、おかげさまで10代の方は増えてきておりまして、北海道全体としても前年より3〜4%増えております。非常にいい傾向にあると思います。献血というものは皆様に伝えることができたということ、その結果が徐々に出てきているのかと思います。そこで問題なのが20〜30代です。特に30代においては各年代の中で落ち込みが非常に激しいです。我々もお話ししましたが、移動採血車が高校に入らなくなり、献血できる環境がだんだんと減ってきたということ、その際に今やっているような献血セミナーを積極的にやればよかったのですが、やっていませんでした。やっと、将来的に困るということ、ここ数年の間に全国で献血授業が高校を中心にやり始めました。

**金澤** どうしてもタイムラグがあると思います。今すぐ献血をするにしても、移動採血車が近くに無かったり、自ら献血に行く機会が無かったり場合もあります。その前に頭の片隅にでも献血の重要性を授業などで学んでいければ、どこかで献血しようと思っていますよ。

**桑原** 献血というものを、頭の片隅でいいし、直接結びつかなくてもいいので少しでも献血のことを知

っていて、それが帯広の献血セミナーを受けていて、その方が札幌や東京で大学に通っている際や社会人になったときに、移動採血車や献血ルームを見かけた際に献血しようと思ってもえれば、私たちの役割は十分果たせたのかなと考えております。ですから献血を知っていただくことが若者の献血増加へつながるのではないかなと思います。

**金澤** データで見た時に、十勝の全部の病院の血液が十勝の皆さんが献血した血液でまかなえているというデータを拝見しました。



**桑原** 血液というのは、成分ごとに輸血を行っているまして、赤血球製剤に関しては、十勝での献血で1年間の使用量の100%まかなっております。ただし血小板に関しては、十勝では血小板製剤は採血できないものですから、成分献血と言いまして血液を採って、血小板だけを残して赤血球製剤を体に戻すという形で血小板を採血するのですが、以前は帯広でも行っていました。今は札幌、旭川、函館で行っていません。その部分に関しては、毎月100人分をもらって、医療機関へ届けております。ですから今の考えは、地域ごとに採血して、それを使用することが難しいということです。血液型が偏ったりしますので、北海道で使用する分は北海道で採血して確保するという考えのもとで行っております。ですから、十勝の医療機関でA B型を多く使用するとなっても確保できる体制は北海道ではとれております。その中で十勝の皆さんの献血に対する想いや協力率ということでは非常に高いものがあります。

**金澤** ここ最近の献血センターとの連携を深める中でノベルティグッズなど使用して啓蒙活動を行っているかと思いますが、その効果はどの程度あるのでしょうか。

**桑原** 帯広青年会議所とタイアップして行っていたのが今までは年1回だったと思いますが、3〜4年前からは年2回を行うようになりました。献血の実績からですと1回の献血で約60人の400ml献血を行っているときがありました。現状では40人程度の献血を行っております。2回合わせると80

人近くになりますし、1回のみよりも年間を通した中では非常にプラスになっていて、また血液というのはどうしても使用期限がありますので一度に多く採血しても使用されなければ無駄になってしまうのが現状です。十勝であれば、毎日40人程度の人が献血を行っていたければ、期限的にもいいですし、無駄にならなくて済みますよね。そう考えると年1回から年2回行うのは我々にとっても非常にありがたいことですし、なにより青年会議所の皆さんが街の人たちに一生懸命ティッシュを配っていただくことで、その時に献血できない方が日曜日しかやっていない献血ルームに足を運んでいただくことが実情で献血ルームでの献血量は全く落ちません。我々がPRをしているかと言え、しているわけではなく、青年会議所の皆さんの行動が成果になっていると思っております。

**金澤** 青年会議所は、草の根運動だと思っています。若者が汗をかきながら運動をしていくという中で、そういった啓蒙活動や移動採血車での献血もそこにあるだけで目に付いた人達にとっても、ここでやっているなど思うということが重要であって、通る人達はその時は献血できなくても献血の看板や、献血の重要性を訴えかけることで少しでも頭に残っているだけることが重要になってくるのかなと思います。

**桑原** まさしくその通りだと思います。献血もやっぱり、いきなり50人しか来ていないものが100人来るといったことにはならないので、日々の地道な活動を行うことがこういった流れになってきたのかなと思います。また、献血はこれからも続けていかな

いとけない事業なので地道に日々努力をしていくことがこれからの献血運動の一番の根幹だと思います。

**金澤** 帯広青年会議所としてこれからも共に活動を行っていきたくと考えております。最後に、桑原所長が考える献血の重要性を伝えていただければと思います。

**桑原** 帯広青年会議所が献血センターの創設からずっと我々がお世話になっていて、ご支援をいただいているという中で最近非常にこれは他にはないことだなど思っていることがありまして、他の協力団体さんはいくつかありますが、大体は移動採血車が行って一緒に声掛けを行うということがほとんどです。帯広青年会議所さんの場合は、血液需要も色々な問題がある中で、年々変わる問題を一緒に我々と考えて取り組んでいただいていることは他に類を見ないことだろうなと思います。一緒に考えて一緒に行動して、その日だけでなく一緒に問題に取り組んでいただいているということは他にはないと思います。会議などで他のセンターの方に帯広は、帯広青年会議所さんが付いていいねってよく言われるので、そういうことを今後は非続けていただければと思います。これは私の帯広青年会議所に対する想いです。献血の重要性という、血液ってというのは人工血液というのを未だに何十年前から研究がされておりますが未だに実用化に至らないですよ。今の時点では血液というのは献血してもらわない限りは使用したい患者さんへ届けられないということですよ。最初に理事長もおっしゃっていたように奥様



が大量出血した際に輸血によって顔色が回復したというような命を救うという意味もありますし、痛みを少しでも和らげるという意味でも医療機関の治療にとっては非常に重要なのだと我々は考えております。今後は高齢化ということを考えて一人ひとりの使用量は減ってはきているのですが、使う方が増えていくのだろうと思います。増々血液の重要性は高まっていくのだろうと思います。その中で一番の問題点は献血する方が人口減少の中で今度は減って

いくであろうということが問題となっていて、そこを我々は献血可能人口と呼んでいて16歳〜69歳のことを言っているのですが、その方々がどんどん減っていています。毎年十勝でも1,000人規模で減っているデータもあり、我々としても献血する方を増やしていかなければなりません。我々だけで頑張っても限りがあるのかなと思いますので帯広青年会議所さんをはじめとして、皆さんの協力がなると血液が必要としている方の元へ届けられないということになりますので、今はメディアやホームページに情報が出ていますのでそれを是非ご覧になっていただいて献血とはどういうものかをまずは知っていただき、移動採血車ですとか献血ルームには是非足を運んでいただければ、そういったことも徐々に解消できると考えております。

**金澤** やはり10代〜30代の血液が必要になってくるということですよ。

**桑原** どうしても40代以上の方はある年齢がくればできなくなるし、その間に病気をしたり、薬を飲んでいたりして献血ができなくなる人も増えてくることがあります。そうなる10代〜30代の方に献血をしていただき、病院に血液が届けられないという事態が起きないようにしたいと考えております。

**金澤** 本年、帯広青年会議所の献血運動では、新たな取り組みを考えております。

**桑原** これは、僕らじゃ発想できないと思っておりまして、さすが帯広青年会議所さんだなと思えました。お話をいただいたときに僕は乗り気でそんな面白いことができるのかと思ひまして、すぐさま本社

の方にも確認を取りましたら、それは是非いいことだからやってくださいと言われまして、是非実現していただいて、これを十勝はもちろんですが、よかつたら北海道にも広げたいと思っております、これをきっかけにして若い方が増えていただいたら、これは本当に素晴らしいことだと心から思っております。

**金澤** 不安も半分ありますが、期待もあるのでしっかりと根付いていければと思います。

**桑原** これは画期的なことだと思います。実は献血の歌って公式なものがあるみたいです。全国的なものであるのですが、僕自身あまり聞いたことがないです。こういった地域の中で行うということ自体がないことですし、非常に僕は楽しみにしております。できたらなんて素晴らしいことだろうと思います。

**金澤** また、農協青年部の20代〜30代で農業に従事している方々への献血PRをしっかりと行い、移動採血車や献血ルームへ足を運んでいただけるような形にしていきたいと考えております。

**桑原** 是非そうしていただかないと、これから5〜10年先になると、血液の需要を考えると厳しい問題になってくると感じておりますので、是非将来のために帯広青年会議所の皆さんがおっしゃっているように農協青年部の方々に是非とも献血の需要を支えていただきたいと思います。

**金澤** 60周年を迎える帯広青年会議所で我々も最大20年しか在籍できない中で、必ず卒業の時からこそ伝えていかなきゃいけない想いがありま

す。

**桑原** そこですよね。限られている中でいかに伝えていくか、20代〜30代の黄金の年代でそのときにいかにやれることをやるということが重要ですね。決められた中だからこそできるということが強みですね。

**金澤** 毎年、単年度制と言われていて、役職も同じ役職ができないと言われている中で、しっかりと一年間の中で自分の想いを形にするという部分と、40歳以降に青年会議所で学んだことをどうやって生かしていくか、会社でも家庭でも十勝でも献血ももちろんそうですし、今十勝での課題に対してしっかりと向き合っていくことがこれからも重要であるし、そういうものが先輩たちに教わった部分であると思えます。

**桑原** 十勝の経済が輝いてみえるのは、そこが理由ですね。色々な街に行きますが、だんだんと寂しくなってくるという印象を受けます。どんどん発展しているのは札幌くらいですかね。その中で札幌から出張などで来る方々が十勝は元気ですねと皆さん言われます。その源は帯広青年会議所だと非常に強く思います。移動採血車で色々な企業に行くと、たくさんの方々が献血に来ていただけます。こんなに良いところは他にはないです。それは、十勝自体が元気だから、いい笑顔で献血をしていただけたらと思っております。

**金澤** 帯広青年会議所にも色々な課題があるのが現状です。会員数も減少しておりますし、組織の変革の流れがきているのではないかと考えております。

**桑原** 今までのやり方だけでは難しいということですね。

**金澤** 青年会議所は何足のわらじを履きながら地域に貢献していく団体です。その中で、女性会員を増加させる必要性ですとか、組織のあり方ですとか、その組織ならではの伝統もあるかと思えます。一般の人からすると受け入れられない場合もありますが、その中でも守らなきゃいけない大切な部分があるはずなんです。しかし、ただ守るだけではなくて、今の時代と未来をしっかりと見据えて、青年会議所が今後どうあるべきかを考える転換期が今であると思えます。



**桑原** 本質というものを崩さないで、それ以外は時代のニーズに合わせて変えていかないと長くは続いていけない気がします。そのかじ取りということでは今年が60周年という行事もありますので是非頑張っていたきたいと思えます。個人的なのですが、献血センター建設へのきっかけになった「おぼけらんど」の冊子を拝見すると、目頭が熱くなります。どうしてそこまでできるのかなと思ひ、本当に素晴らしいので当社の職員全員に読ませて、職員の想いも変わりました。職員ではない地域の方々がここまで熱を込めてやっていただいた血液事業を職員一同守って行かないやならないと改めて思いました。個人的には、帯広青年会議所の方々や帯広市の方々、十勝の方々には何か還元したいなと思っています。何かチャンスがあれば皆さんにお返ししたいなと思っております。

**金澤** 桑原所長にここまで言っていたいて、青年会議所もいただいた言葉を励みに地域に必要とされていく想いを胸にしっかりやっていきたいなと思ひます。

**桑原** 僕らも勉強させてもらっています。どうしても僕らは血液をお願いすることが職業なので職業的な目をお願いをしちやいます。なるべくそれは出さないように、あくまで献血は患者さんのためにあることを絶対に忘れないように常日頃からやっています。しかしいつもそう思っているかというのと職業的な部分もあるので違います、青年会議所の皆さんみたいに協力していただく方は目線が若干違うのかなと思います。僕らが良かれと思つてや

たことでも、実は良くなかったりする場合もあります。それを今後も青年会議所の皆さんに指摘していただきたいし、または一緒に考えて違う目線の中でやっていると、これが相手の血液事業に1番大切だと思ひますし、それが相手側に立って物を考えることになると思ひます。是非とも我われに教えていただければと思ひますし、これからも一緒に血液事業をつないでいければ良いかなと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。

**金澤** 本日はありがとうございました。

2018年4月24日(火) 帯広すずらん献血ルームにて

制作…一般社団法人帯広青年会議所

2018年度広報渉外委員会



## 帯広すずらん献血ルーム

場所

〒080-0807

帯広市東7条南9丁目13番地4

電話

0155-25-0101

フリーダイヤル 0120-245-125

受付時間

【400・200mL 献血】

09:00~12:00、13:00~17:00

定休日

月曜日～土曜日、祝日

※日曜日のみ献血受付致します

【LOVE in Action】

ホームページはこちらです。

<http://ken-love.jp/>

移動献血バス運行スケジュールについてはこちらから検索できます。

[https://www.bs.jrc.or.jp/hkd/hokkaido/place/m1\\_02\\_index.html](https://www.bs.jrc.or.jp/hkd/hokkaido/place/m1_02_index.html)